

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら川口青木教室			
○保護者評価実施期間	25年 12月 15日		～	26年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	25年 12月 15日		～	26年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	26年 1月 20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の課題に応じた幅広いプログラム	児童の課題を適切に把握し、その日のメンバーに合わせたプログラムを立案している。 工作、運動、音楽、知育など、児童が多様な経験をできる活動の他、身辺自立や危険予測など、生活に必要なスキルも身につけられるよう、幅広いプログラムを実施している。	指導員のアイデアや保護者からの意見も取り入れながら、新たなプログラムの考案をしていく。
2	保護者に寄り添った支援	保護者のニーズを受け止め、希望に寄り添い、共感的にかかわるようになっている。送迎時など、短い時間ながらも保護者からの話を聞き、対応している。面談時にも時間をかけて保護者からの意見や日々のお子さんの様子をうかがっている。	送迎時、面談時など、引き続き丁寧に話を聞き、共感の姿勢で寄り添っていく。面談の機会は必要に応じて増やしていく。
3	指導員間でコミュニケーションが取れている	社員・パート職員関係なく仲が良く、日頃からコミュニケーションが取れている。よかったこと、困ったことなど、気兼ねなく話し合える関係性が築けている。	指導員間での明るい雰囲気づくり、話しやすい環境づくりを今後も続けていく。新しい職員が入った際にも、そのわが広がるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	設備・環境面	開所から年数が経っていることもあり、老朽化が目立つ。 (壁、トイレなど) プレイルームへの移動が大変。	直せるところは修繕し、児童、職員ともに快適に過ごせるようにしていく。 プレイルームへは指導員は必ず付き添い、安全に移動する。
2	地域との交流	地域住民の招待や、交流の機会が設けられていない。 地域に向けたイベントを実施できる余裕がない。	小さなイベントからでも企画していけるよう、検討していく。
3	幼稚園・保育園との連携	保育所等訪問支援以外での訪問ができていない。 電話等での情報共有はあるが、なかなか幼稚園・保育園での児童の様子を把握できていない。 人員不足もあり、訪問は容易ではない。	まずは電話等での連携から始め、徐々に訪問などを行い、幼稚園・保育園と連携して支援できるように検討していく。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら川口青木教室			
○保護者評価実施期間	25年 12月 15日		～	26年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数)	35名
○従業者評価実施期間	25年 12月 15日		～	26年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	26年 1月 20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心できる居場所である	普段と様子が違う時には、話を聞いたり、職員間でその様子を共有しながら、職員全員が子ども達の安心できる居場所づくりを意識しています。 また、必要に応じて話し合いの機会を作ったり、本人の良いところを褒めたり、頑張っているところを讃えることで本人の喜びにも繋げながら支援しています。	保護者様との連携を強化することで、より子どものことを知り、保護者様、子ども達共に信頼してもらえるように共感的に支援してまいります。 人間関係の構築が難しい子ども職員がいることで、「困ったら助けてもらえる」「見守ってもらっている」という安心にも繋がるように支援してまいります。 職員との関係性だけでなく、お友達同士でも関係性を作り、居場所となるようにお友達にも繋げながら支援してまいります。
2	多様なプログラムを取り組んでいる	重複しないように新しいものを考えたり、イベントなど楽しんだり、興味を持ちながら様々な経験ができるように工夫しています。 プログラム予定表を考える際にも同じ曜日で内容が被らないように工夫をして組んでおり、取り組む際もその日のメンバーを考慮しながら、必要な物は何かを考えて立案しています。	立案の段階から今よりも職員同士で話し合いを行ない、新たなアイデアを取り入れて幅広い支援ができるようにしていきます。 また、ある程度固定化されたプログラムのパターンの変更も考慮した話し合いをしていきます。 プログラムの振り返りや資料を充実することで、1つ1つのプログラムの改善も強化していきたいと思います。
3	様々な学年との関わりから年下、年上との接し方を学べる	プログラムのチーム分け、配置の段階から年下の児童、年上の児童と関わるように工夫を凝らしています。 プログラム内でも、お友達同士で協力したり関わる機会が増えるように意識しながら、様々な学年との関わりが持てるように支援しています。 声掛けや誘導を工夫することで、年上の児童にお手本になってもらったり、活躍してもらうことで年下の児童の成長にも繋げています。	低学年の児童が高学年の児童に対しての関わり方を学べるように考えていき、支援についてブラッシュアップをしていきます。 また、児童発達支援の児童と関わる機会を作ることで、低学年でも自分より年下のお友達との関わり方を考えていけるように支援してまいります。 自分の学年と違う初対面の子との関わり方も学べるように支援してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	連携不足な点がある	事務上の細かいことでの職員間でのコミュニケーションが不足している部分があり、共有手段も活かしきれていない点があるかと思えます。 また、優先順位の意識の統一や会議の場が少ないことも課題として考えられます。 伝える側は誰にでも伝わる伝え方が不足しているかと思えます。	朝会や夕会以外にも会議の場を月の頭、週の頭など定期的に設け、共有や連携を強化して業務改善に努めていきます。 会議の場ではその時点での主要な業務を伝え、優先順位の認識の統一や共有をおこない、改善を図っていきます。 大きなことだけでなく、日常的な些細な様子も話をして共有することでコミュニケーションの機会を増やしていきたいと思えます。
2	学校の様子があまり見れていない	こちらから積極的に保護者様への学校連携の提案ができていないことが大きいです。 また、学校行事や学校公開などに積極的に参加が出来ていないことも一つの大きな要因かと思えます。	必要に応じて保護者様から情報をいただいたり、間に入ってまいりながら、面談や学校行事への参加をしていきたいと思えます。 学校へのお迎え時でもこちらからアプローチし、学校の日々の様子を聞けるようにしていきます。 また、聞き方もこぼんでの最近の様子など例を出しながら、学校の先生もイメージしやすいように工夫をしながら連携してまいります。
3	保護者様、ご家庭との交流の場が少ない	保護者会、療育参観が開催できていないことが一つの要因となっています。 他にも、児発管は面談等で保護者様と交流することが多いが、他の職員は送迎時以外には保護者様と関わる機会が少ないことが課題となっています。	親子同士、兄弟参加ができるイベントの立案やスケジュール調整を行い、保護者様と多く関わる機会を作っていきます。 現段階では保護者様との関わる機会が少ないので児童発達支援の職員とも連携して保護者会の立案をしていきます。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ごばんはうすさくら川口青木教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 16日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 16日		～ 2026年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 16日		～ 2026年 1月 16日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1件	(回答者数) 1件
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・教室で日頃から児童の療育に携わっている指導員が訪問支援を行っている。	・教室内の実践でうまくいったことの中から、幼稚園でも実際に取り入れられそうなことを事前に話し合い、訪問先で伝えている。	・訪問→助言→実践→振り返りを繰り返して、現場の実態に合った方法を伝えていけるようにする。
2			
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・登録児童は保育所等訪問支援と児童発達支援を併用しており、訪問可能な日時が限られる。	・訪問先の希望と、教室の利用日との兼ね合いでスケジュール調整が難しく、訪問日を設定しづらい。 ・教室内の児童指導員と訪問支援員の人数の都合上、訪問可能な日が限られる。	・人員配置等を調整し、柔軟にスケジュールが組めるようにしていく必要がある。 ・保護者や訪問先の希望に合わせられるよう、早めに日程の調整を進める。
2			
3			